Save The Tropical Forests

ウータン

Hutan 52

森の通信 1999.6.22

- 『オーストラリア イースト ギプスランドの森から』 ……田中純一
- 9年ぶりのサラワクへ ……東 恵男
- 紙と森林を考えてみる② トイレットペーパー篇
- エコツアー体験記 in COSTARICA ……大平治子

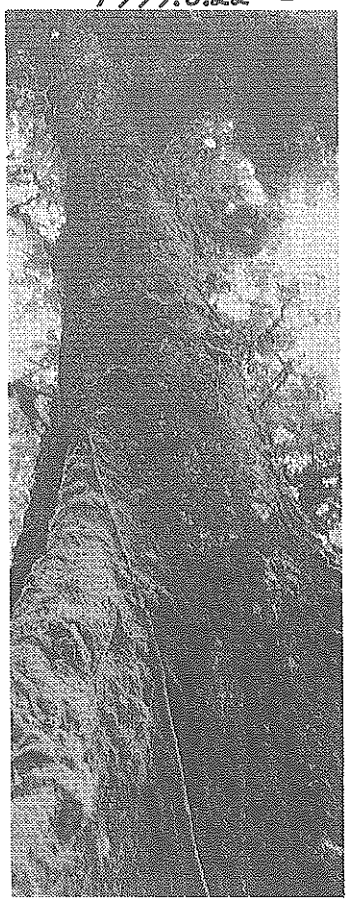
[PHOTO] コスタリカ モンテベルデの雲霧林の中のスカイウォーク。地上20~40mのつり橋から様々な奇生植物の世界や樹冠をみわたすことができます。大平治子

Save the Tropical Forests
ウータン 52 森の通信

CONTENTS 52

1999.6.22

3……「海外の森林破壊と日本」デビット・コードンさん講演
5……ウータンニュース「今年のサラワクでの出来事」
6……9年ぶりのサラワクへ！東恵男
8……オーストラリア・「イーストギプスランドの森から」地球の友金沢 田中純一
12……シリーズ 紙と森林を考えてみる②トイレットペーパーの巻
14……エコツアー体験記 in COSTARICA 大平・浩子 コスタリカ
18……「森林どんぶり」参加感想
19……お便りから，案内
P.5 緒俱栄一さん「真・日本林業論」⑤はお休みです。次号へ
20……スケジュール



▲photo 大平浩子
「スティーブ 瞑想の木」

ウータン活動報告

'99.3～5月

99・3・6	エコ・ビジョン2001第２回会議/参加:西岡、牛田
3・13	エコ・ビジョン2001第３回会議/参加:西岡、牛田、川本
3・28	エコ・ビジョン2001第４回会議/参加:牛田
4・2	入門講座「森林どんぶり」第２回打合せ/篠宮、川本、荒川
4・6	環境教育チーム第２回打合せ/奥村、米澤、荒川、笠原
4・9	講座『森林どんぶり』第1回〔今、森はどうなっているの?〕荒川、西岡
4・13	ウータン５１号発送
4・16	エコ・ビジョン2001第４回会議/参加:西岡、牛田、川本
4・18	シリーズ『海外の森林破壊と日本』第１回北米、ロシアからの報告 講演/デビッド・ゴードン氏(PERC)～同氏を交えて「ＷＴＯ問題作戦会議」
4・22	港区民センターでの「99アースデー」に参加/川本、牛田、西岡、荒木
4・30	エコ・ビジョン2001第５回会議/参加:西岡、川本
5・1	ＡＭネットで第２回「ＷＴＯ・林産物関税問題」会議/参加:西岡、井下
5・7	「森林どんぶり」打合せ/篠宮、荒川、川本
5・12	エコ・ビジョン2001第６回会議/参加:西岡、川本、牛田
5・14	講座『森林どんぶり』第2回〔森と生きる～生きものと人びと〕篠宮、荒川
5・18	環境教育チーム第３回打合せ/奥村、米澤、荒川、笠原
5・20	エコ・ビジョン2001第６回会議/参加:西岡
5・23	『海外の森林破壊と日本』第２回オーストラリア原生林破壊と製紙業 講師/田中純一氏(地球の友・金沢)~同氏を迎え第３回目「ＷＴＯ問題会議」
5・26	エコ・ビジョン2001第７回会議/参加:西岡、川本

《この間、サラワク、コスタリカ、エクアドルへ行ったメンバーもいました》

◎この冊子は再生紙を使用しています。
【表紙】新草本塗（古紙40%）
【中紙】バガス（55kg、非木材紙50%、古紙35%）

シリーズ **海外の森林破壊と日本**　4／17，18～5／22,23～6／26
AMネット、ウータン、熱帯林きょうと
アジア・ボランティア・センター／共催

5/18 第1回森林の「自由」貿易による環境破壊 ～ロシア、北米の報告～

★☆自由貿易とWTO(世界貿易機関)の林産物関税引下げの問題点☆★

講演のデビッド・ゴードンさんは、アメリカの太平洋環境リソースセンター(PERC)に所属し、今年6月、11月シアトルで開かれるWTO会議での林産物関税引下げ問題を危惧・指摘した。

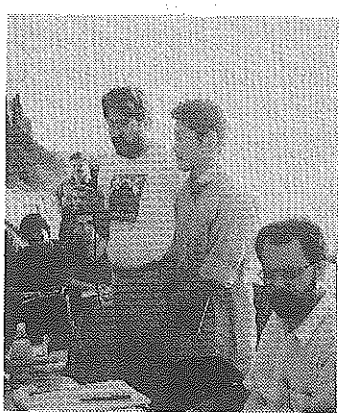
1，関税引下げで、より簡単に、「安価にされた」林産物が取り引され、貿易が増える。
2，今あるWTO協定の中での環境規制も取り除く恐れが高い。
3，途上国から丸太等をより輸入し易くなり、貿易量が増えると環境破壊が先進国も増加する。
4，先進国でも林業破壊がより進み、林地の崩壊が進む。
5，貿易量も増えれば、「害虫」も入り易い。
6，今のWTOは、秘密裡の会合であり、情報公開も、環境アセスもない。

《かなり伐採がStopした！だが米国・原生林は2~5%》

サンフランシスコからきた太平洋地域環境保護活動をしているデビッド・ゴードンです。私たちは、自然・資源の管理について米国等を含めた誤ちを伝えたいとやってきました。

アメリカ、カナダの北西部はかなり広大な原生林がありました。ところが、製材、製紙業として皆伐されました。とっても美しい森でした。森の中に城があるようでした。

私がこの活動に加わったのは、アメリカで最後に残された原生林、千年以上になる森を守ることに関わったからです。しかし今アメリカの原生林は2～5%しか残っていません。大半が単一栽培の植林地などに変えられてしまったのです。



◀左側がデビット・ゴードン氏

アメリカは一大木材供給国と言いますが、植林は同一種の単一栽培で、土壌の生産性が落ち、多様性のある森に復元できないようになってきています。植林をするには、樹齢の違う樹を植え、種類も違う樹にして、土壌の成分をも壊さないものにすべきです。単一栽培は病害虫にも弱い。針葉樹、広葉樹を混ぜた複層林なら、もっと持続的だと思う。だが、アメリカでは伐採後3年で植林しなければならないとしているが、それも守らない時もあるのです。

原生林が残っていれば、火災が発生しても大きく拡がりません。原生林は水分が多くあり、そこの樹木自体も水分が多いからです。それに比べ2次林、若い植林は大火災に弱い。

92年、アメリカ林野庁は皆伐が悪いことを認め、他の方法を考えると言いました。大きな成果です。マダラフクロウの生息地が原生林に多くあって、伐採するなら絶滅に瀕すると、環境NGOや市民が訴えました。フクロウが裁判を引き起こしました。裁判で勝って、残された太平洋北部の森が守られました。

それから私たちは、海外に眼を向けました。カナダの森もブリテッシュ・コロンビア州などが壊滅的にされ、アメリカ企業が今度目をつけたところがロシアだったのです。

《ロシアのタイガ林大量伐採---消えゆく利益はどこに..?》

ロシアの森林は、地球の森林面積の約２割もあり、タイガ林は針葉樹林の半分を占めている。この林は地球のCO_2の吸収に大きな役割を果たしている。１９６０年代から増え始めた伐採は７０年代やや収まった。だが、９１年ソ連解体で、国営化が民営化に移行して、伐採がひどくなった。

シベリヤ・トラはもう４５０頭しかいない。伐採が生息地をズタズタにしている。多様性に富んだタイガ林が危機に瀕しているのです。

カラマツ、トウヒ、ベニマツ、トドマツなどの林です。そこには先住民も住み、小規模木材使用と蜜などの森から取れるもので生活しているのです。森を破壊されつつある彼らは、今環境破壊と闘いつつあります。

民営化は多くの問題を引き起こしました。第１に、木材業に従事していた人々が失業しました。第２に、違法伐採が横行したのです。そして皆伐。極東のハバロフスク地方を中心に、営林署の目の届かないところではひどい。８７年に極東での伐採の７割が皆伐であった。

伐採は８人１組が主ですが、１㎥切って１人たった2.5ルーブル。日本円で１０円ほど。運転手で３０円ほどです。日本に輸入されるロシア材１㎥は、８千円から１万３千円です。一体、この差益はどこに消えるのでしょうか。多くは、ロシアの木材マフィア、そして日本などの木材合弁会社。

労働者は以前の奴隷制度のようにこき使われるが、貧困にあえいでいる。以前より多国籍企業がロシアに入って、より皆伐している。アメリカ・オレゴンの企業、韓国企業・現代、アメリカ政府の補助金をもらった会社、さらにマレーシア華僑企業リンブナン・ヒジャウ(ＲＨ)社など。企業はロシアでも、日本系でも、マレーシアＲＨ社やアメリカの会社も、儲けになるのならどんどん出かけます。例えば、近年ＲＨ社はハバロフスク地域のスクパイ川流域の広大な森林伐採権を４８年もので借受けました。そこの森林を伐採し、また日本向けの木材輸出とするでしょう。

極東地方の木材は、最近８割近くが日本へ輸出されています。日本を廻ってきましたが、どこの港でも北洋材(ロシア材)を見ました。

中国への輸出は、シベリヤ内陸部からです。９８年中国で大洪水があり、森林破壊が理由でした。大規模伐採を中国政府は禁止したんですが、それでロシアからの輸入が増えました。このように、中国、日本も他国へ環境破壊を引き起こしています。

懸念しているのは、今年11月のＷＴＯの林産物協定の合意です。アメリカが積極的に動いています。これがされれば、丸太等の貿易量が増え、輸入国も輸出国も環境破壊が進むことです。市民として、ＮＧＯとしてネットワークが必要です。情報の公開、市民参加がぜひ必要です。

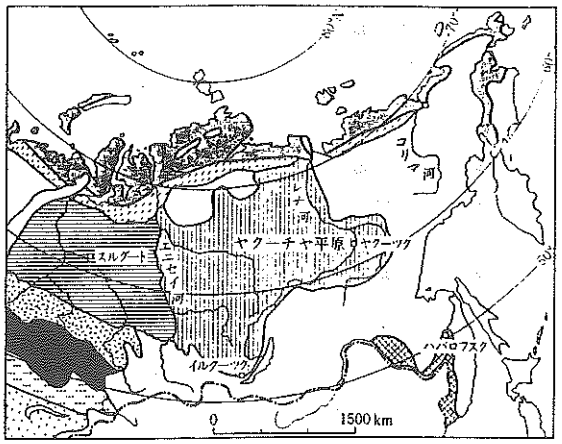
今後、取るべき道は、伐採を追っていくこと。そして原生林等の伐採を止めさせ、生物の生息地の破壊を止めることです。私たちは、今後もアメリカ政府の官僚と会合の予定です。

シベリア・極東の製材生産の推移

(単位：1000m³)

年　次	1970	1980	1985	1986	1987
ソ連全体	116,391	98,199	98,248	102,083	102,455
(うち)北部地域	15,174	13,378	13,144	13,692	13,738
ウラル地域	14,735	12,426	12,021	12,074	12,496
西シベリア地域	8,248	8,639	9,157	9,461	9,362
東シベリア地域	14,965	16,422	16,862	18,000	18,573
極東地域	6,663	6,254	6,179	6,595	6,523

(出所)　1987年ソ連およびロシア共和国国民経済統計集より



山地　暗いタイガ　明るいタイガ　森林ツンドラ　ツンドラ　極東混交林　森林ステップ　ステップ　半砂漠　温帯砂漠

シベリアの植生分布

先住民が伐採に、農園開発に抗議の道路封鎖

◆◇今年、マレーシア・サラワク州での出来事◇◆

《バラム川アポ流域のプナンの道路封鎖》

サラワクでは、今年２月に入ったニュースだが、伐採はまだまだ引き起こされている。

９９年１月１２日、ミリ省バラム地区のアポ川の上流、ロング・サヤンとロング・ベロッのプナン人が再度の道路封鎖をした。

１９９６年８月、彼等の慣習地にまで侵入してきた伐採に対してブロッケードに踏み切っていた。共同体の長であるアジェン・キュー氏は、道路以封鎖前に「私たちの土地や森に対する権利は、未だに不法に無視されています。伐採業者はブルドーザーで侵入してきて、土地や森林、作物にまで深刻な影響を与えています。木材業者に話しかけても、私たちを相手にしてくれません。警察や森林省や州の役人も私たちの訴えや苦情を受けてくれません。サラワク州政府は、金持ちで力のある伐採会社に従順であると感じます。」と述べていたのだ。

ラジュン木材会社(Syarikat Lajung L.)は、プナン人に何度も何度も慣習地に立ち入らぬように言われていた。だが、プナン人を無視して、伐採を強行した。当然のごとく、プナン人は伐採道路を封鎖した。

ロング・サヤンのプナン人たちは何世代もの間、アポ川流域で生活を続けていた。伐採権と先住慣習権の問題は、サラワク土地法の第１８章で「１９５８年１月１日以前にその土地に住んでいたなら、その土地の使用の権利が認められる」とある。ここのプナン人はアポ流域に古えから現在まで住んでいたので、彼等より以降に訪れた人より、プナンに対する先住慣習権が優先されねばならないのだ。

１９９７年、アポとトウト川流域にある共同体の林に、部分的な伐採を認める契約をラジュン木材会社と交わした。しかし、ラジュン社は約束を履行せず、契約外の森林の伐採をしたり、破壊に対しての補償金も支払わずにいた。

とうとうプナン人は、マルディの行政官に状況を説明したところ、行政官はラジュン木材会社にプナンへの補償金の支払いと、契約地域以外の車をのかせるように要請した。

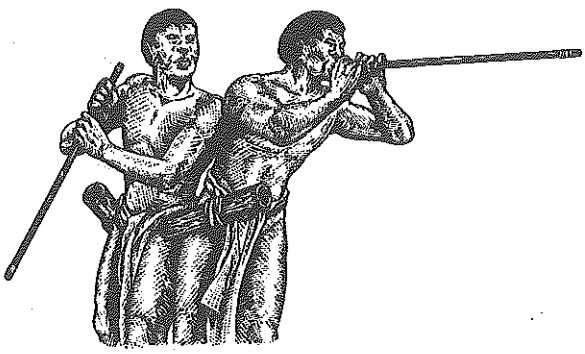
これは嬉しいニュースだ。

《イバン人が油ヤシ農園造成抗議で逮捕さる》

１９９９年２月１９日、かの悪名高きリンブナン・ヒジャウ(Rimbunan Hijau)社の油ヤシ農園造成に、イバン人がブロッケードをして逮捕された。シブ省ムカ地区のスランガウ川沿いに住む４名が、警察に逮捕された。次の日ももう１名が逮捕されたが、保釈保証人のもとで、「善行」を約束して保釈された。

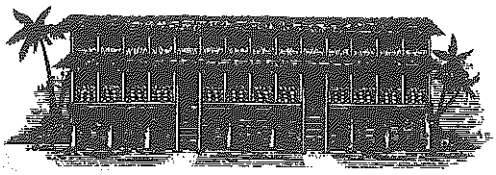
地球の友マレーシア(ＳＡＭ)によると、他の４名は２月２７日に釈放された。彼等の弁護士によると、「住民の慣習地に企業が侵入したから引き起こった出来事だ」としている。

ロシア、パプア、ブラジル、ガイアナまで森林を乱伐しようとする華僑系の多国籍木材会社リンブナン社が、油ヤシ農園造成にまで手を拡げていた。やっぱり伐採後は農園か！



9年ぶりのサラワクへ

SARAWAK



その1

東 悪男（ペンネーム）

≪熱帯林伐採後はプランテーションか？≫

１９８８年に初めて行ってから、２年後のサラワクはすっかり町が変わっていた。貨幣経済が浸透して、森の中で暮らしていた若者は町に出る。町では自動車がどんどん走っていた。それから９年たった。どうなったのか。もう一度サラワクへ行きたい。

３月某日、突然海外から手紙が送られてきた。封書に名前がない。開封すると「油ヤシ・プランテーションが私たちの暮らしを破壊している。州政府にどうかあなたの声を届けて。」と、サラワクの人からのものだった。

今まで迷っていた。語学力と海外での感に不安があった。「えいっ」途中まで同行の峠さんに「おんぶしてもらおう」と心に決めたのだ。

サラワクへ入る時、緊張した。「ぶらぶらする」と、峠さんが上手く助け船を出してくれ、あっけない入州だった。

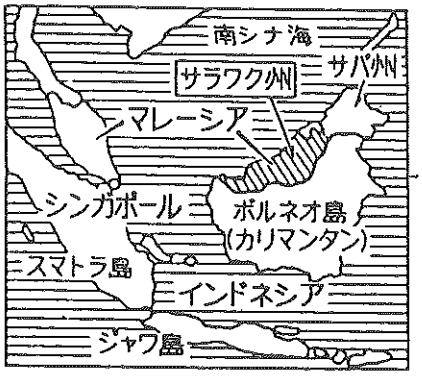
今回の目的は、ヤシ・プランテーションの拡大状態と、奥地へ伸びる熱帯林の伐採と、今問題になっているバクン・ダム計画見学だ。

９７年６月ぐらいから地球温暖化がひどくなり、各地でエルニーニョ現象が起きた。インドネシアの油やしプランテーション付近が特に異常で、飛行機の墜落事故があった。インドネシアの森林を含め１２０万haが大火災にあった。

「４ケ月、一滴も雨が降らなかった。一面が火に囲まれ、かなり向こうの森林も燃えた。車の中でも常にマスクしなくちゃならない状態だった。」とタクシー運転手が指を刺す。

サラワク州ミリ市からビンツル市の間は、燃えに燃えた。人々は水不足のため、バケツなどを持って行列する毎日だったそうだ。もちろん日々の暮らしに大打撃を与えた。

運転手は、「ところが油ヤシプランテーションは大量に水が撒かれ、難を逃れたのさ」。



このあたりは、延々と油ヤシ・プランテーションが続き、他の樹木はまばらだ。ジャングルの奥地の村近くで見た緑色に輝くトリバネアゲハの仲間やベッコウトンボもなく、鳥の鳴き声すらない。農薬と化学肥料付けになっている単一林が広大に拡がる。

サラワク・オイル・コーポレーションなどの工場に油ヤシを運ぶ車が通り過ぎていく。熱帯林伐採後、「跡地はプランテーションに次々と変わっていった」と運転手が言う。

現在マレーシアで約２４０万haが油ヤシプランテーションになり、サラワク州でも２０万ha以上が変わってしまった。今後毎年５万haが油ヤシ開発にされるのだ。

空から見れば、階段状になって赤土が剥き出ている。多様な生態系があった熱帯林。そこは、単一栽培と多農薬の土地になり、復元できない。何が「環境に優しいヤシ油か！」

この油やしを殆どの日本人が使用している。シャンプー、スナック菓子、アイスクリームなどだ。それより現地の人々は農薬や肥料付けの生活を強いられている。私たちが多く使えば使うほど、彼らの生活環境が悪化する。フィリピンでも、インドネシアでも、半島マレーシア、サバ州でもそうなっているだろう。

＜パーム油輸入のほとんどがマレーシア＞

パーム油は、インドネシア、マレーシアがこの２国で世界の生産量の大半を占めている。日本に輸入される量に限って見れば、９７年の植物性油脂の２／３がマレーシアからだ。その大半がパーム油で、その他ヤシ油、パーム核油となっている。

マレーシアの油ヤシ生産量は、１９３０年には３３５０トンだった。その後１９７０代から生産量が急増した。それは、１９７２年に土地開発委員会〔ＳＬＤＢ〕が設立され、換金作物栽培と新たな土地開発が行われたからだ。

もともとサラワクの土地や森は、先住民がが慣習(アダット)によって使い、利用権がその村に属していた。個人が土地を開発する場合でも村共同体で話し合い、開墾をする場合なども規制して、個人は耕作権をもつだけだったのだ。ところが１９６３年にサラワクで土地法が制定され、先住民の慣習地は①原生林の開拓の占有地、②果樹栽培地、③墓地や聖地、④通行の土地や合法的に使用されている土地のみ、それ以外の利用を禁じられた。

政府が木材企業に伐採権を発効しても、殆ど先住民は知らされなかった。余りにも一方的だった。だから違法伐採に抗議した人々は、１９８０年代に続々と道路を封鎖したのだ。

だが、州政府は７６年にはサラワク土地統合復興機関〔ＳＡＬＣＲＡ〕を作り、焼畑の廃止と農園開発の促進を図った。そして８１年、土地管理局〔ＬＣＤＡ〕をも作り、全ての土地について「大臣が開発地と指定すれば、強制的に開発に着手できる」と制定したのである。

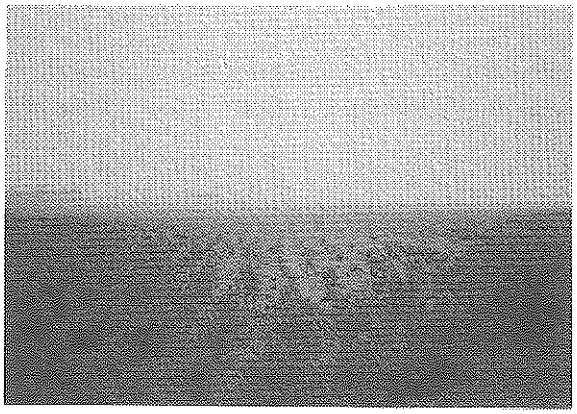
森の生態系の保護もない上、先住民の権利を奪う法律を次々と作っていった。伐採やプランテーション開発に都合の良いふうに。

１９８５年に油ヤシ生産量は、約４１３万トン、８９年には約６００万トン、９５年に７２０万トンほどになっている。

私に届いたサラワクからの手紙には「プランテーションは森林伐採よりもたちが悪い。伐採はそれが終わると、まだ森が復元すれば住むことが出来る。畑もできる。プランテーションは永遠に森林に戻れない。土地も私たちの手から離れる。」と記されていたのだ。

ヤシ・プランテーションは生活も環境も人権も全て根こそぎ破壊してしまう。

私たちの暮らしの中に大きく入ったヤシ油。輸入を止めるには、私たちが使用削減を心がけていくべきだ。サラワク、サバ州、インドネシアなどでは、今後も油ヤシ・プランテーション開発がされるだろう。これについて、私たちはどうすればいいのか。アイスクリームやヤシ洗剤の使用削減では、この動きは止まらないのだ。無農薬、単一栽培はだめだ、という働きかけでいいのだろうか。



▲ 地平線までアブラヤシが続く……
バコン／ティンジマ地区プランテーション

Email:blueball@po.incl.ne.jp

オーストラリア・イーストギプスランドの森から

地球の友金沢　田中純一

【オーストラリアのエコツアーへ】

昨年の11月から12月にかけての約２週間、Forest Campalgns And Communitis Ecotourのプログラムに参加するため、オーストラリアのビクトリア州とニューサウスウェールズ州を訪れた。

今回のツアーは現地の環境ＮＧＯであるFriends of the Earth,Marbourne（地球の友・メルボルンオフィス）が主催したもの。ツアー参加者のほとんどは内外の地球の友メンバーで構成されており、ギリシア、スウェーデン、スイス、スロバキア、ベルギー、ポーランド、オランダとヨーロッパ勢が目立った。

プログラム内容は多岐にわたっていたが、中でもメインとなっていたのがビクトリア州のEast Gppsland（イーストギプスランド）という森への訪問だ。ここは、日本の製紙会社である大昭和製紙の現地法人・ハリス大昭和が大規模な森林伐採を進めている地域で、以前から地元住民や環境保護団体などの強い反対運動が繰り広げられているところだ。

【イーストギプスランドと日本】

ハリス大昭和がイーストギプスランドで最初に伐採を始めたのは1970年代になって

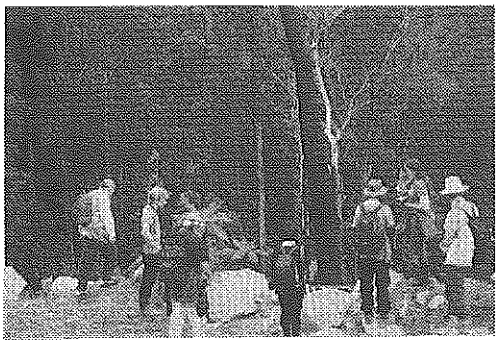
▲「一体いつになったらDAI SHOWAは森林破壊のためにお金を支払ってくれるのか？」

から。それまでの北米依存から脱却するために、日本の製紙パルプ産業はオーストラリアに広く広がるユーカリの原生林の資源開発に目を付けたのだ。こうした流れの中、大昭和製紙は1967年にニューサウスウェールズ州のイーデンに木材チップ工場を設立。以来、原生林の伐採を続けてきている。

現地では当初から、原生資源の重要性を訴える地元ＮＧＯを中心とした反対グループによる道路封鎖やデモ行動、製品ボイコット運動の呼びかけなどが盛んに繰り広げられてきている。

しかしこうした根強い反対運動にもかかわらず、年々、貴重な原生林がオーストラリア大陸から姿を消して行っている。ここ最近のデータを見ても、毎年5,000ヘクタールから8,000ヘクタールもの原生林が伐採され続けている。これは約4,400個の野球場に匹敵する面積で、１日当たりでは12

1トンのウッドチップに対して企業が政府に支払うロイヤリティはたったの20セントだ。



個分の野球場面積に匹敵する森林が伐採されている計算になる。

伐採された森林のほとんどがウッドチップ用だ。ここイーストギプスランドでは伐採量の80%以上がウッドチップ用なのだ。

これらのウッドチップは一体どこに行くのか？　そのほとんどが私たちの国、日本へと運ばれてくるのだ。そして、ティッシュペーパーやコピー用紙、雑誌など使い捨ての紙製品として日本の市場へと送り出される。中には樹齢が数百年というユーカリの木までもが、粉々に粉砕され、チップになって、最後は使い捨ての紙製品になっていく。

こうしたことをオーストラリア市民が快く思うはずがない。現に、オーストラリア市民の80%がウッドチップ用に原生林を破壊することに反対を表明している、という地元NGOの報告もある。

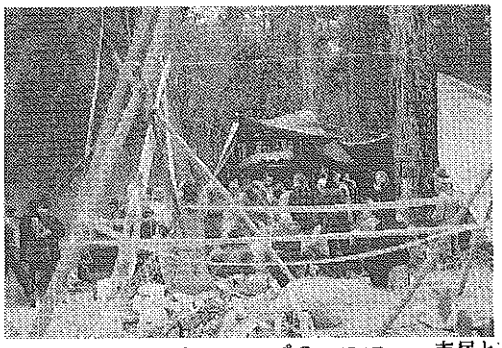
【グーロングックの森でワークショップ】

イーストギプスランドの中でも現在、地元のNGOが根強い伐採反対運動を繰り広げているのがグーロングックというエリアだ。ここは全部で8,000ヘクタールの森林地帯であるが、このうちの約7割に当たる5,700ヘクタールが、ハリス大昭和のウッドチップ用の伐採対象に指定されている。このうちすでに800ヘクタールは伐採されてしまった。

グーロングックには樹齢が500年を越えるユーカリの原生林があるほか、樹齢数千年とも言われるシダ植物などが生い茂っている。ここはキャプテン・クックがオーストラリア大陸を「発見」するはるか前から、安定した植生と生物多様性を保持してきた貴重なエリアなのだ。グーロングック一帯は、温帯雨林と冷温帯雨林の交錯するところでもあり、オーストラリア大陸固有の有袋類を含む生物種の宝庫となっている。

Long Footed PotorooやTiger Quoll、Yellow BelliedGliderなど絶滅に瀕している動物たちの貴重な生息域としても広く知られている。

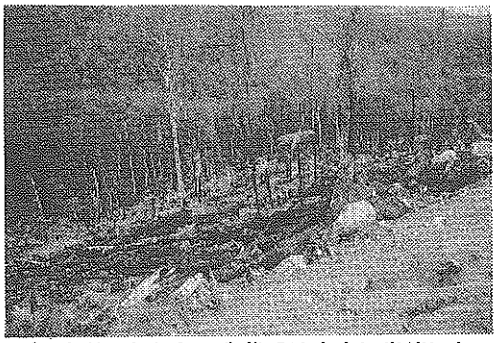
イーストギプスランドの森林の80%から90%近くが日本に運ばれて、日本でウッド



WOODSTOPのワークショップの一コマ。一市民として何ができるのかについて熱く議論が繰り広げられていた。

チップとして消費されていることを考えるとき、つまり私たち日本人の言う「豊かさ」というものの多くが、貴重な原生資源やそこに生きる動植物の犠牲の中で成り立っていることに気が付かされる。

グーロングックの森の中には、ハリス大昭和の森林伐採を少しでもくい止めようと、森に定住しながら企業や政府の動きを監視している人たちがいる。ＧＥＣＯという環境グループのメンバーだ。ちょうど私たちが訪れたときは、WoodStopという集会が開催されているときで、森を愛する市民や環境ＮＧＯのメンバーが500人近く、全豪から集結していた。メインイベントは森林伐採の現状を見てもらうことと、ＧＥＣＯが企画したＮＶＤＡ（non violence direct action：非暴力直接行動）のためのワークショップの開催である。「暴力に対して暴力で対抗しても、そこからは何も生まれない」ことをよく理解しているオーストラリアの環境グループメンバーは、「どうしたら企業や政府に対して効果的なインパクトを与え、勝利を収めることができるか」を徹底的に話し合ったうえで、具体的な行動に移している。ＮＶＤＡは、プラカードを持ったデモンストレーションや横断幕の設置などから始まり、バリケードによる道路封鎖、人間の楯による道路封鎖、自分たちの身体を伐採予定の樹木やブルドーザーなどの重機に縛り付け工事ができないようにする、など多彩だ。いずれの場合にも徹底しているのは、警察や工事関係者に対して一切手を出さないということ。この手のアクションでは、血の気の多い若者がどうしても応戦したがる。しかし、経験豊かなグループメンバーが事前にワークショップなどを企画し、徹底的に話し合い理解を求めるため、無意味な暴力対立は近年起こってはいない。



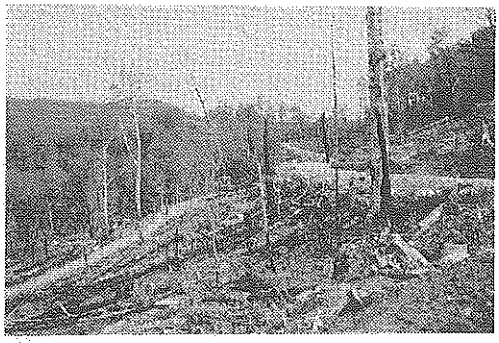
▲ 火が入れられ、生態系は完全に崩壊した。向こうに見える森もいずれはこうなってしまうのだろうか。

【ナパーム弾で森を焼き尽して】

彼らの案内で、１ヵ月半ほど前に伐採し火を放たれた森を訪れた。

辺り一面はまるでコールタールを塗りたくったように真っ黒で、痛々しい。「大虐殺」ということばが、ぴったりと当てはまる光景だ。

ここでの伐採は、必要な木を切り出した後、残った森にナパーム弾を投下して火を放ち、辺りを焼き尽くしてしまう。その後はヘリコプターなどを使って必要なユーカリ種の種をばらまく。それまで豊かな植生



と生物多様性を保っていた森は、このときから単一種の商業ベースの森林と変わってしまうのだ。そしてもうそこにはオポッサムもコウモリも鳥たちも住むことはできなくなってしまう。

焼けただれた森の中で、かろうじて命をつないでいる木々を見かけた。全身やけどの状態の大木からは、それでも若い芽が顔を出し、命の火を灯していた。

このとき、なんとも言えないやりきれない気持ちになった。悲惨な光景を目の当たりにしたメンバーのある者はもって行き所のない怒りに包まれ、ある者は涙していた。このときばかりは辺りが重い空気に包まれた。

案内をしてくれたＧＥＣＯのメンバーのひとりに「日本の人たちは、オーストラリアの木々がどんなふうに伐採されているか、どれくらいの量を輸入しているのか、知っているのですか？」と聞かれた。苦し紛れに「多くの人は知らないと思う」と答えたとき、地元のＮＧＯメンバーはショックを受けていた。

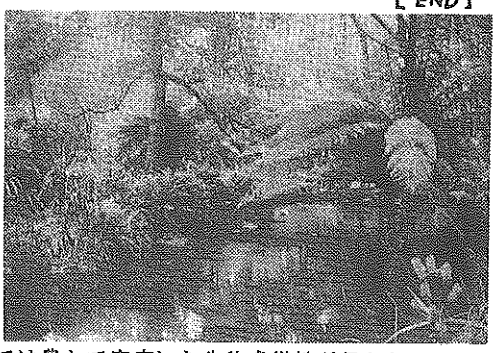
しかし彼はこう付け加えた。「知っていないのなら希望はある。この現状を知れば、多くの日本人がショックを受けるだろう。そしていろんなことに気が付くだろう。森のことを真剣に考えて、ライフスタイルを改めてくれる人がたくさん現れるかも知れない」。

今年１月、金沢でネイティブアメリカンの長老に会う機会があった。そのときに彼が言っていた言葉がとても印象的だった。

「私たちが魚を捕るとき、『申し訳ありません。魚を捕ります。生きるために少しいただきます』そうお祈りをしてから魚を捕る。春にメープルシロップをとるときも、１本１本の木に触れながら祈りを捧げ、感謝していただく」

私たち日本人もほんの少し前までは、１本１本の木を愛情を持って育て、木を切るときにも語りかけてから伐採することを行っていた。自然と共存共栄していく中では、それはごくごく自然な姿だったのだ。しかしこうした姿、なによりこうした心に触れる機会はほとんどなくなった。先住民族のメッセージは、今の時代の私たちのライフスタイルに対する直接的なメッセージに聞こえてならない。

［END］

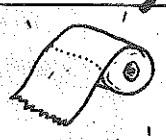


人間の手が入っていない場所では豊かで安定した生物多様性が保たれている。

シリーズ 紙と森林を考えてみる ②

PAPER AND FOREST

かみ 【紙】(音)シ ⇩ 植物繊維をすいて製し、印刷・筆写・包装用の薄片。後漢の蔡倫(サイリン)が発明したという。 paper ペイパ



●ちょっとした調査でしたが……。

先号で呼びかけました「あなたの町のトイレットペーパー…」の結果をまず報告いたします。

一応、再生紙のものを買おうとぐらいに思っていましたトイレットペーパーでもこうして調べてみると色々わかってきました。

期間　4月～5月末
対象　スーパー、コンビニ、ホームセンター、ドラッグストアー、生協など（大阪、神戸、石川）　全37店
調査者　18名
のべ個数　170種（重復あり）

このあたりに集中している。

分類		1円	2円	3円	4円	5円	6円	7円	8円	9円	10円	11円	12円	13円以上
パルプ100%	61	0ヶ	0	0	1	10	17	2	3	8	7	3	2	8
古紙100%	96	1	3	6	28	30	23	2	2	1	0	0	0	0
混合 パ+古	10	0	0	1	1	3	1	1	2	0	1	0	0	0
不明 明記アシ	3	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総数(のべ)	170	1	4	8	31	43	41	5	7	9	8	3	2	8

[備考]

114mm 幅

110mm

S シングル ……60m～180m
W ダブル（2枚重ね）…27.5m～60m
の種類あり

◆1ヶの重さ 60mシングルで 約120g（芯10g含む）

◆1袋に4ヶ～24ヶ入りがあります。（4, 6, 8, 12, 16, 18, 24ヶ入）

◆特価の場合、約2割引が多い。　◆混合は古紙、残しパック40%～50%入り

◆特徴は、色つき、絵柄つき、保湿、香りつき、消臭、抗菌、コアレス（芯なし）無漂白、エンボス、ミシン目つきなど

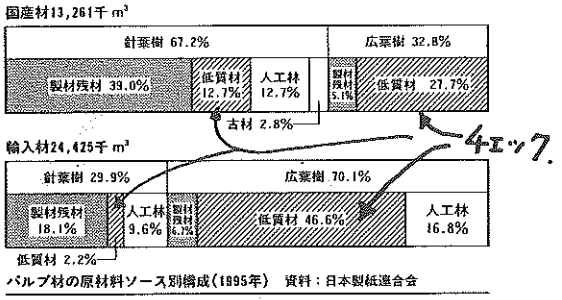
▲上の表はとにかく集まった全ての個体数から割出したもので代表的メーカーのものは重復しています。又、特価のものも入っていますので、一応の目安として見て下さい。

価格から何ヶ入りということで1ヶの単価を割出し10m当りの値段を出しました。又、シングルかダブルで、ダブルの場合÷2にしました。

その結果、パルプも古紙も4〜6円の間に集中しています。
よく出回っているものがこれぐらいの価格でしょう。
パルプ100%は下のラインが5円以上保湿,香りつきなどになると10円以上になっています。それに比べて古紙は2円から高くても8円におちついておりますネ。混合もこの範囲です。
代表的メーカーはほとんどパルプ100%のトイレットペーパーをつくっています。

- ホクシー HOXY → ホクシー(株)
- ネピア → 王子製紙
- スコッティ → クレシア(株)
- エリエール → 大王製紙

こうした大手も最近トイレットペーパーに関する限り牛乳パックや古紙のものも出しております。(クレシア牛乳パック100, HOXYなど.)
トイレットペーパー,パルプ100%の原材料は何の木,どこから来るのかを,王子製紙に問い合わせてみると樹種はユーカリで輸入先は米国がトップのだんとつ,そのあとオーストラリア,カナダ,チリ,ニュージーランドなどの国がつづく。
ではトイレットペーパー1ケをつくるのにどれぐらいのチップ材が必要なのか?と聞いてみたところ100gのトイレットペーパーに約倍のパルプ200gがいるということでした。
古紙のトイレットペーパーの価格が安くなって来ていることに関しては年々古紙の回収率が増えてきていることによるということ。



パルプ材の原材料ソース別構成(1995年) 資料:日本製紙連合会

上の表を見て下さい。低質材というところがあります。これは何でしょう? 王子製紙が出版している「紙のリサイクル100の知識」の紙は何からつくられる?のページにも書いてありますが,国内材も輸入材も他に用途のない天然木の低質材と製材の残材の比率が70%を超しておりその他の大部分も人工林からの木材です。ですから紙を作るために大切な森林を大量に伐採しているという表現は妥当とはいえません。と,……。
ウータン㊾号でも製紙連合会の回答で

「私どもは一般に家具・建材等以外のものを〔低質材〕と言っております。収穫など森林の取扱については、各国の法令や制度等に基いて行われており、発生する〔低質材〕の利用は資源の有効利用の一つと考えております。」

と答えてはいるが,一体誰に対して他に用途がない木,家具建材以外の木と言っているのか? 人間に対してだけであって こう言い訳しているのであろう。
しっかり現実の森林破壊をみれば誰でもわかる!

今回,調査協力してくれた皆さん 田中豊幸,藤村はるえ,篠宮早苗,金成子,川田久美子,中山陽子,瀬谷百合子,杉浦幸子,坂本和代,岩崎香,坂口陽子,北野秀喜,吉川牧子,牧野紘子,松波美由紀,西岡良夫
どうもありがとうございました。(敬称略)
[Faxで名前のわからない方2名あり]

(つづく)

寄稿

REPORT

エコツアー体験記 in COSTA RICA

記：おーひら・ひろこ

今年の3月下旬に、自然環境保護の先進国として、またエコツーリズムの聖地として最近しばしば耳にする、中米はコスタリカへ旅してきました。一度行った位でさしたる紹介にならないかもしれませんが、海に囲まれ山がちで火山と温泉に恵まれ、変化に富んだ地形と気候、水が飲めて、治安も悪くないと、何だか日本と似かよったところのありそうな（最高峰の山の高さもにてる！）、でも九州と四国をたした位のこの小さな国がめざしてきたものは、今日本が転換をはからなければならない環境問題を考える上で、とても参考になると思います。そしてあらためて日本を考えなおすきっかけになれば幸いです。

エコ・ツーリズムは、環境保全を前提にした観光なので、自然案内人のガイドと共に保護区内や公園を解説付で観察したり楽しんで、自然への影響を最小限にとどめる工夫がなされています。ガイドといっても、国立の職業訓練学校でライセンスを発行。農業国のこの国の外貨獲得源で"観光"がコーヒーやバナナをぬいて一位になったのは'93年のこと。さて、自然保護と経済性、開発（観光・農業）問題、どうバランスをとっているのでしょうか？

コスタリカ共和国ってどんな国？

"映画ジュラシック・パークが撮影された太古の森があるとこ"

"TV「神々の詩」で巣の中にキノコ畑をつくる蟻キリアリの行列をみたっけな"

"雑誌ナショナルジオグラフィックに絶滅が心配される美しく長い尾羽をもつ鳥、ケツァールの保護にとりくむ人々が紹介されてたこと、あったなあ"

これ、私のあやふやな情報でした。どこにあるんかなあ…と地図をみれば、北アメリカと南アメリカをつなぎとめてる命綱みたいな楕円のところにありました。

面積	51,100km²（九州と四国をたした位）	
人口	344万人（'97年）	1/3が首都サンホセに。
宗教	主にカトリック。公用語 スペイン語	
民族	スペイン系白人と原住民との混血 97.5% 黒人1.5%，インディオ0.5%（政府観光局調べ）	とにかく美男美女多し。人の顔にばかり、視線がいってしまう。あなたも行きたくなりましたね？！
通貨	コロン（コロンブスが発見した土地なのだった）	
日本との時差	−15h.（日本から直行便はなく、アメリカのロス・ダラス・マイアミ等経由）	
識字率	94%	国家予算のナント1/3が教育費なのだ。
総選挙投票率	'94年度 83.8%	'83年永世非武装中立国に。

（※ コスタリカ政府観光局，大使館発行のパンフレット等参照）

コスタリカといえば熱帯雨林とくるでしょうが、中米地峡に位置し、カリブ海と太平洋にはさまれ自然のままの海岸線が保たれた美しいビーチを無数にもつ。遊泳用は600ケ所。　ウミガメが産卵期には海岸をうめつくし、海は順番まちのカメでぎっしりというアリバダもこの国にある。

中央に火山帯、そして北米と南米大陸双方の動植物が共存する独自の生態系をもち、貴重な生物多様性に富んだ国なのだ。

地球全地表のわずか0.034%しかないこの国に、地球全体の約5%の動植物が確認されている自然の楽園なのだった。

コスタリカ政府は、過去10年間に絶滅にひんした危惧種を救うため、国立生物多様研究所を設立し、自国生物の目録作成と調査を行ってきた。

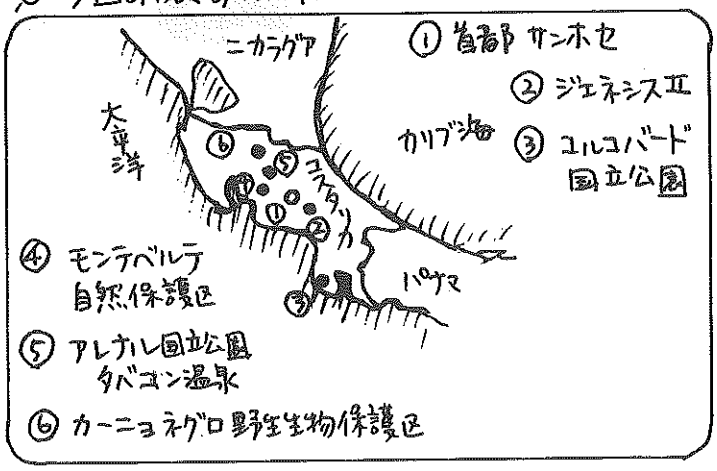
…それによると

哺乳類	209種	鳥類	849種（世界の10%）
両棲類	160種	爬虫類	218種
魚類	130種	蝶類	1239種（世界の10%）
蘭	約1300種（世界の10%）		
植物	9000種（世界の4%）		

※国土の27.6%が生態系保全地区になっている。

…ってな訳で、期待を胸にしで…

今回の旅のルート



・オスは胸のあっかとコバルトブルーグリーンの背や尾のコントラストが美しい。顔はグリンで黄色の口ばし。
・メスはグレーの胸で地味だ。人気NO1!?

首都サンホセを中心として交通網は放射線上に伸びているため、サンホセを拠点に各地へショートツアーが盛りだくさんに用意されている。

乾季の12月～4月は観光シーズン。欧米からのエコツアーで、入場制限のある保護区は、予約がいっぱいになることもあるらしいからと、私達も日本から予約を入れておいた。

— QUETZAL ケツァール
古代マヤの聖鳥
グアテマラの国鳥
コスタリカでも手厚く保護。

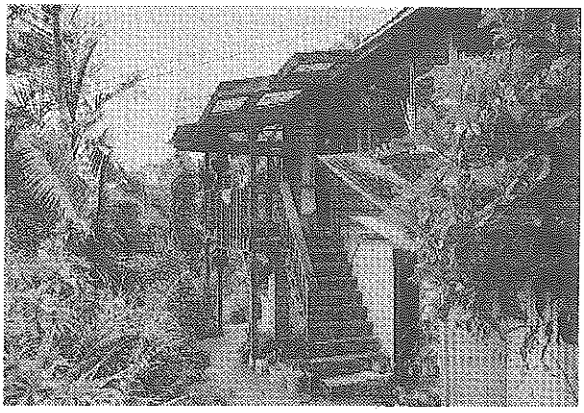
▶ ジェネシスⅡの雲霧林

細くたわさがった藻のような植物は、森の中を霧状の雲が通りぬける時に水分を保とうとするための形態をとる。

雨林の植物は雨に依存するが、雲霧林では雨が降らずとも、水分を生み出すことができる。

ジェネシスⅡでのすごし方

ロスから約7時間で到着したサンホセはカラッと晴れあがり、さっそく南へ約360km、カルタゴ地方にあるジェネシスⅡへ向かう。途中、大きな木にピンクの花や黄色の花が美しい。



▶ 最初の3年間は、休暇を利用してこの家の建設と水源確保の作業にあけくれたという。

ジェネシスⅡは、フリードマン夫妻の民有の雲霧林保護区だ。

夫妻はカナダで教師をしながら、環境保護活動に携わってきたが、環境破壊が深刻になるばかりで、何か自分達の力で小さくとも努力の実る保護活動がしたいとコスタリカへやってきた。

原生林が残り、自然保護区に隣接した地域で地震の少ない所、等の条件で場所を探したところ、この地の75エーカーの雲霧林を購入できた。この森の再生と保全のため、植林やトレイル整備活動及び調査を行なっている。（トレイル：自由に歩き回って生態系を壊したり、そこに生息する生物をおどろかすことなく、自然環境にかける負担を最小限にとどめられるようなルート及び道造りがされている。）

そして夫妻の活動はボランティアの人達やエコツアーの収益によって支えられている。また、森での実地教育の場を提供することに、夫妻はほこりをもってみられます。

車でサンホセより2時間強のこの、ジェネシスは標高2360m（サンホセ1150m）。非火山系のタラマンカ山脈にあり、標高、気候、地理等の条件が揃い、数千年前と同じ太古の環境が保たれているところでもある。といえ、やはり、牧場等のため森林伐採もされており、夫妻も購入した森の荒れ地に、雨期に流土しない様Alderという木をうえたり、ケツアールの好きな実のなるリトルアボガドの木等の植林を進めている。

さて、ジェネシスに到着後、さっそく"森をみたい"ときかれ、スティーブさんの後についていくことになる。
森の話をききながら、"植林してる樹は、もともとこの地にあった種なのであか"など通訳の時のガイド氏を通してきいていると、ケツァールをみることだけを目的にする人々よりは熱心に思ってくれたのか、森がなぜ必要なのか、そのしくみを知ってほしいから質問や意見をどんどんいってくれるとうれしいとようこんでくれるのだ。ケツァールの生きていける豊かな環境の森。今、英国よりボランティアの人達がきていて、トレイルを整備する作業をしてくれているという。トレイルはごく自然なけもの道のようなところもあれば、危険なところは廃木利用の丸太に建築用鉄材網をかぶせた、すべらないエ夫の踏み台をうめ、とてもシンプルな道となっている。小さな滝、清流の音。

▶ 大きな幹の根元でスティーブさんは、瞑想をよくすると教えてくれた。私達もさっそくスティーブさんの話から イマジネーションしてみる……が、私の場合は迷想でした? 森の緑の空気が、体に入りこんだ気分!

奥さんのポーラさんの手作りの夕食とケーキ。
ぐっすり休むって早朝より、又森を歩く。原始的なシダ類も多い。
そしてスティーブさんよりケツァールの鳴き方を学んで、みんなでやってみる。
ケツァールは3月と6月のえさの豊富な時に、2度抱卵する。その数、2個。
オスがメスを呼ぶ繁殖期の鳴き声は、ホウ→とエがってホウ→とすぐさげる。
上達してきたころ、何と、本物の声が!! うつくしい! 双眼鏡をあてる間もなく、次の木へ移ってしまう。シャイだけど、かわいくて、優美である。やはり、私も出会えると、うれしいのだ。ジェネシスIIの案内には『ここでは大古からの森を守り、土地に優しい暮らしをするために、ジャグジーもなければテレビも舗装道路もありません』とある。だが、ここには、ボランティアとして、又、ゲストとして この森を次の世代へ残すために"ワレは役立つんだ"という充実感があるのです。千年生きてきた森のあるじの樫の木、120種の野鳥、珍しい昆虫、かれんな蘭、落葉そっくりの色のカエル、めったに出会えないけれど、ハリネズミやアルマジロ、リスやネズミやコウモリ等、みんな欠けてはならない森の一部であり、すべてでもある。スティーブさんありがとうございました。

▶ クラブモース/こんな晴れた日でも、しぼれば水滴が。鎮静剤にもなる。

• GENESIS II • e-mail: genesis@yellowweb.co.cr
Phone [506] 381-0739, FAX [506] 551-0070

◎次(…が許されるなら)は、コスタリカ、最後の秘境といわれるコルコバードだよ。

～森への想いをカタチにする　じゅんびたいそう～

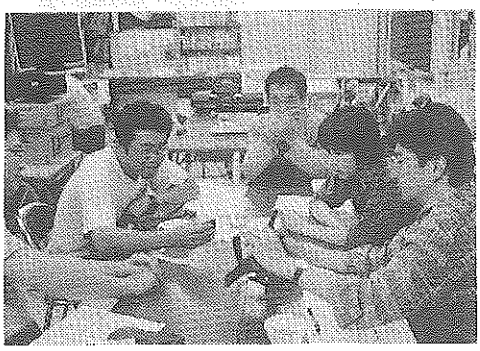
～楽しく満たそう
知的好奇心～

森林どんぶり

が始まったよ～ん

先月号でお伝えしました「森林の問題って何？」という超初心者オッケーの連続講座『森林どんぶり』が、4月、5月とそれぞれ予定通り行われました。

これまでの講座に参加された方々に、ご感想を寄せていただきました。



（参加者の感想）

参加者が主体的にセミナーに関われる

私自身、国際交流・協力のボランティアとしてインドや東南アジア等によく行き、植林などをしながらも、あまり現地の環境問題をよく勉強してこなかった。今回は熱帯の環境問題を基礎からやるというので、飛びついた。

熱帯林と熱帯雨林の区別など、あまり普段意識していないこと、新聞などを読んで何となくわかったようになっていたことなどが、素朴な質問を通してよくわかった、ような気がする（今のところ……）。また、現地の木材から先住民の人たちが作られた用具を推理するゲーム（ワークショップ？）などは、参加者が主体的にセミナーに関われる試みとして、大変効果的だと思います。個人的には、一方的に話されると眠くなるので。

これからも素人っぽい質問で突っ込みますので、よろしくお願いします。

（小吹　岳志さん）

（参加者の感想）

森林どんぶりに参加して

森林問題について全く何も知らない私ですが、「来てみて良かった」というのが森林どんぶり参加後の率直な気持ちです。講師の方と参加者が気軽に話し合っていて、超初心者の私でもすっと受け入れてもらえる雰囲気だったので、私の緊張も不安も吹っ飛びました。「どんな所かな」という緊張も、「本当に森林のことを何もわからないのだけど」という不安も、一見にしかず。勇気と好奇心で来てみて良かったです。

また、参加型学習もあって、楽しみながら知らず知らずのうちに、様々な物とそれにつながる人びとやその暮らしの一端を知ることができました。森林問題をやわらかく、身近なものにして学べる森林どんぶりに、本当に来て良かったです。

（森　香織さん）

スタッフから

4月の第1回と5月の第2回で、合わせて28人が参加しました。どちらも参加者中心のプログラムで、なかなか好評だったのではないかなと思っています。

今後はもっと参加者の意見を取り入れて、より充実したプログラムを提供していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

（BOBことKatsunori・K ）

森への想いをカタチにする　じゅんびたいそう

森林どんぶり

毎月第２金曜日、夜19:00 より、大阪梅田のｱｼﾞｱﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰで開講（８月はお休みです）。
超のつく初心者でも安心の「森林問題」の講座です。楽しく満たそう、知的好奇心！
参加費は１回６００円、４回だと２，０００円（どの回でもいい）とお得です！

第④回…… ７月　９日（金）　どうして紙を使うのか？

第⑤回…… ９月１０日（金）　悪い植林？　いい植林？

第⑥回…… 10月　８日（金）　暮らしの中の熱帯　～ヤシ・バナナ・エビ・家具～

「森林どんぶり」に参加希望の方は、前日までに下記（どちらか）へお申し込みください。
ｱｼﾞｱﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰ→☎06・６３７６・３５４５／fax ６３７６・３５４８（荒川）
ｳｰﾀﾝ・森と生活を考える会→☎／fax 06・６３５４・８４８９（山猫通信社・篠宮）

お便りから…

（敬称略）

＊京都に引っ越しのために、あまり会合にでかけられなくなりましたが、それでも皆様の活動を支援いたします。　水田哲生

＊ウータンから便りがきました。また少しでも協力しようと思っています。　梅尾文子

＊マレーシアのタマン・ネガラ国立公園へツアーで行ってきました。実際の熱帯林を体感できてよかったです。　佐藤重子

＊ごぶさたしています。今は神戸支局で事件を担当しています。環境・公害問題に早くシフトしたいものです。　野呂雅之

＊いつも頑張っている皆さんには頭の下がる思いです。また、通信をお送りください。　望月とし子

＊講演時間が伸びてしまい、また十分伝えきれなくてすいませんでした。ドイツの政策にそのものは、とても話しきれませんでしたが、日本とドイツはちがうということははっきりしています。私たちも金沢で、このいい見本をどう政策に反映できるかに取り組んでいます。
是非、ビデオでこれを紹介して、みなさんも考えていただきたいと思います。　地球の友・金沢・　谷内昭慶

（谷内さんは、ウータン総会でドイツ・フライブルク市の報告とビデオ上映をしてくださいました。大変興味深いビデオです。貸出いたします。学習会などでご活用ください。貸出料は３，０００円です：ウータン）

…［会費・カンパをいただいた方］（敬称略）　９９．６．８まで
菊池明子　倉友かつみ　佐藤重子　汐見文隆　田中亜子　辻垣正彦
恒成和子　野呂雅之　平井英司　水田哲生　明周正和　横見幸子
蓮原耕児

ありがとうございました！

［裏返し封筒ありがとうございました］
梅尾文子さんより５０枚もお送りいただきました。

［りさいくる］　……さしあげます！！
家具調コタツ（茶色）：１５年使用（きれいに使っています）
☆関心のある方は、井下まで０６－６８４１－８２２１（夜）

HUTAN ACTION SCHEDULE

●今年も『枝打ち旅』やります！

今回は「下草刈り」です。

【時】7月3日㊏，4日㊐の2日間

【現場】兵庫県多紀郡丹南町大山

【持ち物】作業着，帽子，水筒，雨具，保健証，寝袋など

【問い合わせ，申し入み】(財)PHD協会まで詳細をご連絡下さい。Tel.078-351-4892 Fax 078-351-4867 担当 伊藤まで

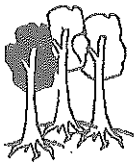
◀昨年の作業風景

●●● 第三回 自由貿易と東南アジアの熱帯林

～フィリピン、マレーシア、パプア・ニューギニアからの報告

6月26日（土曜日） 午後1時～5時 ●●●●●●●

講　師：関　良基さん（京都大学大学院農学研究科）



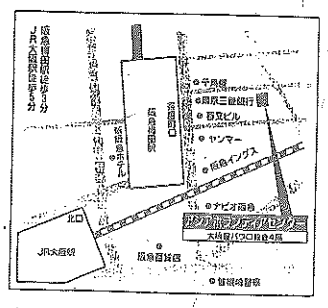
西岡良夫さん（ウータン・森と生活を考える会）

南洋材を求め東南アジアの伐採地域は、フィリピンからインドネシア、マレーシアへと移動してきました。現在はパプアニューギニアにまで及んでいます。

フィリピン現地で研究を行っている関さんと、ウータンの西岡さんにお話していただきます。

【大阪会場】（アジアボランティアセンター）

参加費用：1,000円（資料込み）



大阪市北区兼屋町2-30-4F
☎06・6376・3545

アジアボランティアセンター（AVC） TEL&FAX：06-6376-3545

ウータン・森と生活を考える会 TEL&FAX：0722-52-0505（西岡）

ウータン・森と生活を考える会

【OFFICE】〒530-0015 大阪市北区中崎西1-6-36
サクラビル新館308
「関西市民連合」気付
Tel.06-6372-1561

[一部]300円 [年会費]3000円

[郵便振替]00930-4-3880

◎購読希望の方は郵便振替で申し込み下さるか、又事務所までご連絡下さい。

◎ウータン定例会は、毎月、第2、第4火曜日7:00pmより「関西市民連合」事務所にて行っております。

PRINTED ON RECYCLED PAPER